

平成 25 年度第 1 回伊勢志摩定住自立圏推進協議会 議事録

日時：平成 25 年 4 月 23 日（火）10：00

会場：三重県伊勢庁舎 4 階 401 会議室

（進行役：森井情報戦略局長）

本日は、皆様には大変ご多用のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、ただいまから、伊勢志摩地域におけます定住自立圏構想に係る会合を始めさせていただきます。私は、本日司会を務めさせていただきます、伊勢市情報戦略局の森井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

協議会が設立されるまでの間、私の方から進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。申し訳ございませんが、座って進行させていただきますので、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

それでは、私から本日、ご出席いただいております皆様方を、ご紹介をさせていただきます。

鳥羽市長	木田	久主一	様
志摩市長	大口	秀和	様
玉城町長	辻村	修一	様
度会町長	中村	順一	様
大紀町長	谷口	友見	様
南伊勢町長	小山	巧	様
明和町長	中井	幸充	様

そして、伊勢市長 鈴木健一でございます。

また、本日は、伊勢志摩地域におけます定住自立圏構想の取組におきまして、大変ご尽力いただいております、三重県南勢志摩地域活性化局の頓部邦夫局長、並びに三重県松阪地域防災総合事務所の高沖秀宣所長にご臨席を賜っております。どうもありがとうございます。

それでは、開会に先立ちまして、伊勢市長鈴木健一からご挨拶申し上げます。

（鈴木伊勢市長）

皆さんおはようございます。

本日は、伊勢志摩定住自立圏構想の推進協議会の第 1 回目の会合にあたりまして、朝

からすいませんお集まりいただきました、あらためてお礼を申し上げたいと思います。

また今回の定住自立圏構想にあたりましては、頓部局長、高沖所長にも、大変お力添えをいただきました。あらためて感謝を申し上げたいと思っております。

これまでも各行政区域におかれまして、例えば消防や救急、地域医療もろもろで協力関係を構築してまいりましたけども、この地域は非常にまだまだ、人口減少ということが、また地域の活性化ということが大きな課題となっております。

人口が増えたのが玉城町さんくらいでして、それぞれの課題と、そしてこれからの未来作りのために、それぞれ持っている財産、そういったものを協力していって、各地域の住民にとって、メリットがある、地域住民の生活が豊かになる構想作りに皆様方のお力添えをいただきたいと思っております。

まずは、第一歩のスタートラインに立つことができました。これからどうぞよろしくお願いいたします。皆さん本当にありがとうございました。

(進行役)

それでは、議事に移らせていただきます。

1番でございます。伊勢志摩定住自立圏推進協議会の設立について、でございます。

【議案第1号】伊勢志摩定住自立圏推進協議会規約（案）

【議案第2号】伊勢志摩定住自立圏推進協議会推進体制（案）

の2つの議案について、ご審議をいただきます。

まず、【議案第1号】伊勢志摩定住自立圏推進協議会規約（案）につきまして、事務局からご説明いたします。

(事務局：大西行政経営課長)

※事務局から【議案第1号】伊勢志摩定住自立圏推進協議会規約（案）を説明

(進行役)

ただ今の説明につきまして、ご質問等ございましたら、よろしくお願ひいたします。

<…なしの声>

(進行役)

それでは、【議案第1号】伊勢志摩定住自立圏推進協議会規約（案）につきましては原案のとおり可決することで、ご異議ございませんでしょうか。

<…異議なしの声>

(進行役)

ありがとうございます。ご異議なしのお言葉を頂戴いたしました。それでは、【議案第1号】は、可決決定をさせていただきます。

この協議会の会長につきましては、先ほどご説明を申し上げましたとおり、協議会規約第4条第2項の規定によりまして、定住自立圏構想の中心市である伊勢市長を充てることとなっております。

ここからの進行につきましては、会長であります伊勢市長鈴木健一が行うこととさせていただきます。それでは、鈴木市長、会長席への移動をよろしく願いいたします。

(会長：鈴木伊勢市長)

それでは、議案第1号をご承認いただいたということで、会長を務めさせていただきます。進行にご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

それではまず、本日は、この定住自立圏構想の取組の具体化を図るため、8市町での推進組織として、この協議会を立ち上げるとともに、協定の締結及び共生ビジョン策定を目指し、委員の皆様と取り組んでまいりたいと考えております。

それではここで、委員の皆様にひと言ずつ、お言葉を頂戴したいと思います。

まず、先日再選されました木田市長からお願いいたします。

(木田鳥羽市長)

皆さんおはようございます。

本日は大変お忙しい中をご参集賜りましてありがとうございます。今までも、協力をしてやってきたつもりですけれども、各市町単独では、なかなか発展が難しい中で、こうしてみんなで協力し合って進めるということは非常に有意義なことだと思いますので、今後とも、共に進んでいきたいという風に思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

それでは、大口市長、お願いします。

(大口志摩市長)

おはようございます、志摩市長の大口でございます。これからも多面的な広域でこの地域の活性化を図るために、努力をしていきます、よろしくお願いいたします。

(会長)

では辻村町長、よろしくお願い致します。

(辻村玉城町長)

玉城町の辻村でございます。この中心市であります伊勢市さんとは、以前から、医療・福祉・あるいは産業、そして防災等、大変こう、結びつきが強いわけでもございまして、この定住自立圏の立ち上げによりまして、さらに、連携を強化することで、この圏域の定住が促進される、そしてこの地域が、一層持続可能な地域として発展していくことが、非常に今回の立ち上げで、期待ができる、という風に思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

続いて中村町長、お願いします。

(中村度会町長)

この制度は、なかなか難しいなという個人的な思いがございましたけれども、まずやはり県のご指導と、伊勢市が中心となってやっていただいたことに感謝まず申し上げたいと思います。

それから、海と山と平坦の、3市5町が、一緒になってやるということで、今の段階で内容見せてもらいますと、既存の事業とか制度に拘っているわけではないですが、そこから始めているという概況ですので、ビジョン作成をしたら、この制度の一番本来の趣旨に近いように、皆さんで努力して、県ご指導のもとに、定住自立圏構想に近いような、中身のあるものにするようにやっていただけたらと思いますので、努力を惜しまずに皆さんと共に頑張りたいと思います、どうぞよろしくお願いいたします。

(会長)

続きまして、谷口町長、よろしくをお願いします。

(谷口大紀町長)

谷口であります。ひとことお祝いを申し上げます、まずはおめでとうでございます。鈴木会長には、大変世話をかけていることもあろうかと思いますが、副会長がないわけですので、どうぞ木田さんと大口さん、両市長さんも、若い会長さんをフォローしてやっていただきたいと思います。

最寄りということで、我々かなり、人間で言うと足の先が合うところに生活している小さな町ですからね、どうぞ活きた協議会にさせていただくよう、我々も協力させていただきますので、どうぞその点、会長さんにおかれては、しんどい時に重要ポストに当たって大変恐縮ですけれども、活きた協議会に、本当に私自身も待っていた協議会であり、防災、また観光客など、遷宮ひかえて、そういった時期に、今日23日かな、微力なが

ら我々も協力させていただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

(会長)

それでは、小山町長からお願いします。

(小山南伊勢町長)

南伊勢町の小山でございます、よろしくお願ひいたします。

この伊勢志摩地域は、私は昔から非常に仲の良い地域で、伊勢志摩はひとつという風に思います。行政圏はそれぞれ分かれてますけれども、地域としてはやっぱりひとつ、ということで、経済のつながりとか、人のつながり、地域のつながりというのは非常に深かったかと思ひますので、その今までの資源と、これから更に良い資源を見つけながら、いいビジョンが出来て、そしてこの伊勢志摩が発展していくということが、非常に期待されると思ひますので、ありがたいと思ひます。

今年のご遷宮というのも大きな機会ですし、それ以降、更に良くしていくということが、これからのこの地域にとって大事やと思ひます。

また今、道州制の話なんか出てくると、この地域がきちっとなっているということが本当に大事なことやと思ひますので、是非これから良いビジョンが作れるように、どうぞよろしくお願ひいたします。

(会長)

最後になりますが、中井町長の方から、お願ひいたします。

(中井明和町長)

明和町長の中井です、どうぞよろしくお願ひを申し上げたいと思ひます。

まずはこの推進協議会に参加をさせていただきました、本当に皆様方のご理解の賜物と、感謝を申し上げております。

特に私どもは、ご案内のように、伊勢斎宮跡がございまして、この斎宮跡は伊勢神宮とは切っても切れない史跡でございます。

そういった意味で、我々斎宮跡を中心に、観光面でなんとか、という風な思ひで、いま取り組んでおります。

特に、伊勢志摩の皆さん方との関わりが非常に強いという形の中で、今回、このような形で協議会に参加をさせていただくことになって、地元町民も含めて大変喜んでおるところでございます。

この地域が、ますますこう発展していくその大きな流れの中で、私どもも、微力でございますけれども一生懸命頑張ったいと思ひますので、よろしくお願ひ申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました、皆様、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは会議を進めさせていただきたいと思います。【議案第2号】伊勢志摩定住自立圏推進協議会推進体制（案）について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

※事務局から【議案第2号】伊勢志摩定住自立圏推進協議会推進体制（案）を説明

(会長)

ただ今、議案第2号について、説明がございました。ご質問等はございますでしょうか。もしあればよろしくお願ひしたいと思ひます。

<…なしの声>

(会長)

中村町長さん、よろしいですか。それでは、【議案第2号】伊勢志摩定住自立圏推進協議会推進体制（案）は原案のとおり可決することで、ご異議ございませんでしょうか。

<…異議なしの声>

(会長)

ありがとうございます。それでは議案第2号は可決といたします。

それでは続いて、事項書の（2）推進スケジュール（案）について、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

※事務局から推進スケジュール（案）を説明

(会長)

ただいま、事務局からスケジュールについて、説明がありましたけども、ご質問・ご意見はございますでしょうか。

<…なしの声>

(会長)

それでは、質問ないということですので、推進スケジュール（案）を基本として、今後進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<…異議なしの声>

(会長)

はい、ありがとうございます。続いて、事項書の（3）、連携を想定する取組の（案）について、事務局から説明をいたします。

(事務局)

※事務局から連携を想定する取組の（案）を説明

(会長)

ただいま、取組の想定案ですけれども、説明がございました。ざっくりとした原点になりますけれども、この点について何かご質問・ご意見等がありますでしょうか。

(小山南伊勢町長)

よろしい？

(会長)

はい、どうぞ、小山町長から。

(小山南伊勢町長)

この項目について、今後またいろいろ、協定の中で、あるいは検討なんかあったら参加させていただきたいということもありえると思うんで、その辺をまたよろしくお願ひしたいと思います。

(会長)

特にこれがコンプリートされたものではなくて、あくまでも今出てきている叩き台の叩き台ということでご理解をいただきたいという風に思っております。

他、よろしいでしょうか。

少し事務局の方に、課題というか、注文出したことがありまして、我々その行政間だけの連携だけでは、どうしてもこう、想定できるものが範囲が限られてくると思います。

で、5つの部会が今ありますので、これ行政の職員だけではなく、住民の方々も交流

をして、そして、いろんないいお互いの、隣の町の良いものとか、発見して連携できることができればなあと思っておりますので、そういった点についても是非ご協力もお願いをしたいという風に思っております。

ほか、よろしいでしょうか。

はい、それではよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で、本日ご協議いただく案件は終了となります。ほか全般に渡りまして、何かご意見があれば頂戴したいと思ひますが、いかがでしょうか。

(谷口大紀町長)

はい。

(会長)

それでは、谷口町長からよろしくお願ひします。

(谷口大紀町長)

我々、首長はともかくとしても、それぞれの市町の職員が、しょっちゅうではなくてもよろしいので、年2回、職員で相談してもらって、情報共有をまずしていく、というのが大事ではないかと。

それぞれの町はもうチームですから、そういうところから取り掛かっていただきたいと、担当する伊勢市をはじめ鳥羽市・志摩市がそれぞれ、市長さん頑張ってください。市長さんらがこういった責であろうかと思ひます。

ただ、この管内の市役所・役場の職員同士というのは、割と財政が貧乏ですが仲の良いということが取り柄だろうと、金持ちにはない、貧乏人の良さを我々持つとるわけですから、そういうことでまず無い者同士で知恵を出し合って、中身を良くするために。それで、年に1度くらい、そうお金もいることでもありませんし、それぞれの市町の関係者が寄って、勉強すると。その中で、テーブルへ課題を挙げることも、これは想像はできるけども。職員をちょっと養成することもまた。立派な職員ばかりでしょうけども、やはり百聞は一見にしかずということもありますので、その町らしい雰囲気、それを基礎にして、いろんなことへの理解も深まるでしょうし。

そういう点を提言させていただきます。以上です。

(会長)

はい、ありがとうございます。

まず、谷口町長から非常にありがたいご提案いただきまして、職員の交流のこと、事務交流のことなんですけれども、職員の交流と、現場にきちっと足を運びあうということも非常に大事だという風に思ひますので、当初、期間・時期と内容については事務局

に検討させますので、例えば2ヶ月に1回なのか、3ヶ月に1回なのか、それぞれの市・町に足を運んで、実際にどういう状況なのかということの勉強会と、交流会程度は現場の職員でできる環境を作らせていただきたいと思いますので、よろしいでしょうか。

<…異議なしの声>

(会長)

個人的には、夏場のトロピカルガーデンが非常に良いかな、と思っておりますけれども、やっぱりその、それぞれ机の上だけで、データだとか、資料だとか、計画書だけで見とって何もわからんことが沢山ありますので、やはり現場で対応できるような機会を、ちょっと検討していただきたいと思います。

あとはいかがでしょうか。

事務局の方からは何かありますでしょうか。

(事務局)

特にございません。

(会長)

はい、わかりました。それでは今日は第一歩ということで、この8市町でスタートをさせていただくことになりました。

すごくこう、すごい好きな数字で、8は末広がりでありまして、横に倒しても無限大になるという、すごくいい数字になると思いますので、これから単にその協議会という形だけではなく中身のある将来の10年後、20年後に向けたこの地域の活性化に向けて努力をしていきたいと思っておりますので、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

本日は、この程度で会議を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。